

# 美術館ニュース

no. 177  
2019 7/1

## 長島有里枝 × 竹村京

Yurie Nagashima × Kei Takemura

## まえといま

Now ⇄ Then

2019年7月13日[土] - 9月1日[日]

会場：展示室1

休館日：月曜日（ただし7月15日、8月12日は開館）、7月16日（火）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般610（480）円、大高生300（240）円

\*（ ）内は20名以上の団体割引料金

\* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

主催：群馬県立近代美術館、まえといま実行委員会

助成：公益財団法人花王芸術・科学財団、公益財団法人野村財団

特別協賛：有限会社高橋農園

協賛：株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン

協力：EBENSBERGER RHOMBERG、MAHO KUBOTA GALLERY、Taka Ishii Gallery

長島有里枝と竹村京という2人の作家の過去と現在が交差する地、高崎において開催されるこの展覧会は、家族、時間、記憶など2人に共通するテーマに焦点をあて、本展のために制作される新作と、それに連なる過去の作品によって構成されます。

長島有里枝の新作『過去完了進行形』（図1）は、祖母が遺した大量の押し花を印画紙の上に直接並べて焼き付けた作品です。種類ごとに丁寧に分けて保管されていた花卉や葉、茎などは、押し花絵画を作るための素材だったのでしょくか。長島は祖母がやり残した仕事を、この作品によって引き継いでいます。

長島の短編集『背中の記憶』（2009年、講談社）には、祖母の遺品の中から発見された庭の植物の写真をめぐる一文があり、それらの写真を長島が撮影した作品も今回出品されます（図2）。そのほか、祖父母の遺品を使ったインスタレーションが、祖父母の出身地であり、長島自身も幼少期からたびたび訪れていた高崎の地で展開されます。

竹村京は今年、東京に暮らす両親を高崎に呼び寄せ、それにともない実家は取り壊されました。《Gone Ginkos in Tokyo and Takasaki》（図3）は、東京の実家と、高崎のお寺にあったイチヨウを対比させた作品です。すでに切り倒されてしまった2本のイチヨウの木には、長い時間の記憶とこれらの木に接した人の思いが染み込んでいたはずでず。竹村が感じ取った記憶や思いは、写真の前にかげられた透明な布に絹糸による刺繍で表現されます。

これまでも群馬県産の絹糸を作品の素材としてきた竹村は今回、群馬県が改良を重ね世界で初めて実用的な繭生産に成功した「蛍光シルク」を用いた作品も発表します。《修復された Y.N.のコーヒーカップ》（図4）は、長島の母が金繕ぎした長島のコーヒーカップを、竹村が透明な布でくるみ、継いだところを蛍光シルクで刺繍した作品です。暗闇で不思議な光を発するこれらの作品はこれまでにない表現を生み出し、絹の新たな魅力を発信することにもなるでしょう。



1



2



3



4

1 長島有里枝  
『過去完了進行形』より  
《ミモサ、アカシア》  
2019年

2 長島有里枝  
『SWISS』より《祖母の花  
の写真とコンセントのイン  
スタレーションショット》  
2007年 東京都写真美術  
館蔵

3 竹村京  
《Gone Ginkos in Tokyo and  
Takasaki》制作中の様子  
2019年5月

4 竹村京  
《修復された Y.N.のコー  
ヒーカップ》2018年

### 【関連事業】

#### ■オープニング・パフォーマンス

竹村京「Curtain for Opening」

7月13日（土）14:30～

ゲスト・パフォーマー：安藤洋子（ダンサー）

会場：当館1階ギャラリー 【観覧無料・申込不要】

#### ■アーティスト・トーク 長島有里枝×竹村京

8月25日（日）14:00～15:30

会場：当館2階 講堂

定員：200名（先着順）【聴講無料・申込不要】

#### ■学芸員による作品解説会

7月24日（水）、8月10日（土） 各日14:00～15:00

【要観覧料・申込不要】

※出品作家によるワークショップも開催します。詳細・申込方法は3ページをご覧ください。

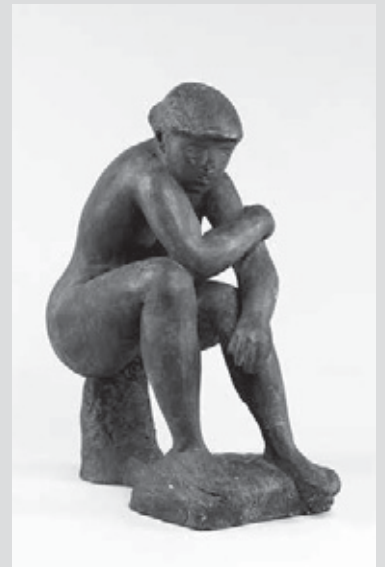
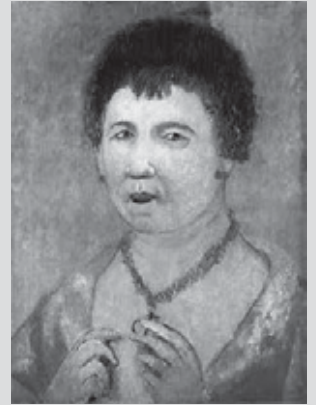
## 平成 30 年度 新収蔵作品紹介

群馬県立近代美術館では、平成 30 年度、油彩 7 点、素描 28 点、版画 27 点、彫刻 6 点、合計 68 点の作品を寄贈により新たに収蔵しました。

本県ゆかりの作家や日本を代表する作家による近現代の作品のほか、17 世紀から 20 世紀までの西洋版画、そして 20 世紀を代表するイタリアの彫刻家マリノ・マリーニの貴重な油彩と彫刻作品が、ご所蔵者や作家、作家のご遺族のご厚意により寄贈されました。

新収蔵作品は当館のコレクション展示等において順次公開していく予定です。

分類	No.	作者名(生没年)	作品名	寄贈者名
油彩 (7点)	1	笠木 實 (1920-2018)	木馬館	笠木壽子氏
	2	司 修 (1936- )	魔術の手帖	作者
	3	森 芳雄 (1908-1997)	《若者》 ほか3点	門田正子氏
	4	マリノ・マリーニ (1901-1980)	ポモナ	医療法人社団 白水会 理事長 須田昭夫氏
素描 (28点)	5	森 芳雄	《裸婦三態 I》 ほか27点	門田正子氏
版画 (27点)	6	笠木 實	《裸婦》 ほか3点	笠木壽子氏
	7	司 修	《題不詳》 ほか6点	酒井重良氏
	8	中林忠良 (1937- )	Transposition—転位—III	酒井重良氏
	9	両角 修 (1948- )	No.14	酒井重良氏
	10	ハンス・ベルメール (1902-1975)	黒人女(『取扱説明』より)	酒井重良氏
	11	ロドルフ・プレスダン (1825-1885)	騎士と死神	酒井重良氏
	12	ジャック・カロ (1592-1635)	《座る二人の人物》 ほか5点	酒井重良氏
	13	サム・フランシス (1923-1994)	無題(『ミシェル・ヴァルドベルグ:空の詩』より)	酒井重良氏
	14	シャルル・メリヨン (1821-1868)	《時計塔》 ほか4点	酒井重良氏
	彫刻 (6点)	15	鶴岡政男 (1907-1979)	《人体》 ほか3点
16		マリノ・マリーニ	座る水浴する人	医療法人社団 白水会 理事長 須田昭夫氏
17		マリノ・マリーニ	ポモナ	医療法人社団 白水会 理事長 須田昭夫氏

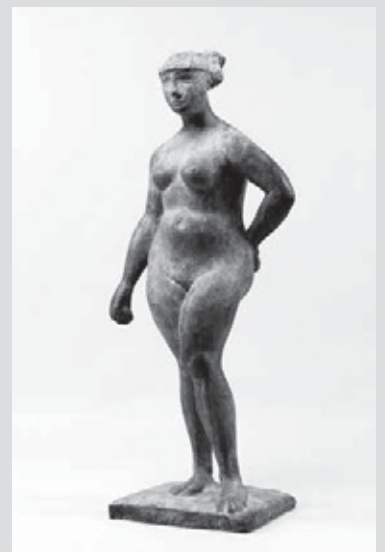


### マリノ・マリーニとその作品について

現在開催中のコレクション展示では特別コーナーを設け、マリーニの油彩 1 点、彫刻 2 点をご紹介します。

マリノ・マリーニ (Marino Marini, 1901-1980) は、イタリア中部トスカーナ地方の町ピストイアに生まれました。古代ローマ以前にイタリアで栄えたエトルリア文明が生み出した素朴で力強い造形に大きな影響を受け、豊かな自然の恵みを女性像に表した「ポモナ」連作や、暴れる馬に振り落とされそうになる騎手により人類の悲劇的な姿を表現した騎馬像によって、20 世紀を代表する彫刻家の一人として評価されています。

日本国内では、第二次世界大戦後に多く制作された騎馬像は各地で見ることができますが、戦前、戦中の人物像は数少なく、さらに今回寄贈された彫刻はそれぞれ 3 体ずつしか铸造されていないため、世界的にも貴重な作品です。また油彩作品は、おそらく叔母を描いた肖像画で、マリーニ初期の具象的な表現をみることができます。



### コレクション展示

「平成 30 年度新収蔵作品より マリノ・マリーニ」

会期：2019 年 4 月 20 日(土)～9 月 1 日(日)

会場：2 階 展示室 6

寄贈されたマリノ・マリーニ作品  
(上から)

《ポモナ》 1927年 油彩・合板 46.7×34.3cm  
《座る水浴する人》 1935年 ブロンズ 97.6×42.5×79.0cm  
《ポモナ》 1945年 ブロンズ 163.5×65.8×55.5cm

## コレクション展示

美術館のコレクションは、収集方針によって形成され、過去から現在・未来へと橋渡しをする、美術館の根幹をなすものです。当館では、開館以来45年間にわたり収集された約2,000点の中から、様々なテーマによって選んだ作品を、年間を通してご覧いただけるよう努めています。歴史に残る名品、ユニークな切り口のテーマ展示、群馬ゆかりの作家の作品など、当館でなければ出会えない魅力的な作品ばかりです。

## 【展示室2】

## ■日本と西洋の近代美術Ⅰ 4/20～9/1

当館の所蔵作品の中から、モネやルノワールなどの印象派から20世紀前半の西洋近代絵画、群馬ゆかりの作家や明治から昭和を代表する作家たちによる日本近代洋画ならびに彫刻を展示します。



マルク・シャガール《世界の外のどこへでも》  
群馬県企業局寄託作品

## 【展示室3】

## ■現代の美術Ⅱ 7/13～9/1

多彩な表現による20世紀後半以降の美術を紹介します。石内都、オノデラユキ、片山真理ら国際的に活躍している作家の写真作品、現代アートの代表的な存在であるダミアン・ハーストや草間彌生の作品などを展示します。



オノデラユキ《古着のポートレートNo.13》

## 【展示室4】

## ■近現代日本の木版画

7/13～9/1

浮世絵に代表されてきた日本の木版画では、近代以降多様な表現が試みられました。今回は、所蔵の木版画より、川瀬巴水、恩地孝四郎、藤牧義夫、関野準一郎ら木版画の可能性を広げた個性豊かな作家の作品をご紹介します。



関野準一郎  
《雨のアントワープ》

## 【展示室7】山種記念館

## ■群馬の日本画家 7/6～8/4

明治以降に活躍した群馬ゆかりの日本画家より、小室翠雲、岸浪百舛居、石原紫雲、福田元子、高橋常雄らの作品をご紹介します。



福田元子《磯》

## ■描かれた人々 8/6～9/1

日本の絵画は西洋の影響を受けて、特に明治を境に大きく変化しました。人物はどのように描かれたのか、日本の近世から近代までの人物表現に着目します。



歌川豊国《納涼美人図》  
戸方庵井上コレクション

M u s e u m | N e w s

## 子どもがこな、夏の美術館

2019年7月20日(土)  
～8月25日(日)

この夏も、スペシャルなアート体験があなたを待っています。

## ワークショップ

「あなたの大事な、壊れてしまったものについて」

## 【要申込/無料】

講師：竹村 京（企画展示「まえといま」出品作家）

日時：8月4日(日) 13:00～16:00

対象：小学4年生～一般



竹村 京《修復されたM.S.のコーヒークップ》2006年

## ワークショップ

「拾ったもの、大切なものを日光写真に撮ろう」

## 【要申込/無料】

講師：長島有里枝（企画展示「まえといま」出品作家）

日時：8月18日(日) 13:00～16:00

対象：小学生～一般（小学3年生以下は保護者同伴）



長島有里枝『過去完了進行形』  
より《山吹》2019年

会場：2階アトリエ

定員：各20名

申込方法 ※6月25日(火)から先着順

電話、Eメール、FAXのいずれかで次の内容をお知らせください。

- ①参加希望のワークショップ名
- ②お名前（複数の場合は全員）
- ③年齢（複数の場合は全員）
- ④ご連絡先（電話番号/Eメールアドレス/FAX番号）

申込み・お問い合わせ先

群馬県立近代美術館 教育普及係  
TEL 027-346-5560 FAX 027-346-4064  
E-Mail: bijutsu@pref.gunma.lg.jp

E v e n t

申込みのいらない

## ミニワークショップ【無料】

時間：10:00～16:00（受付は15:45まで）

会場：1階エントランスホール

## A ひんやり色の ポンポンキューブ



期間：7月20日(土)～8月25日(日)  
\*休館日、木曜日をのぞく

## B きらきら、透明 クリアメルト



開催日：7月25日、8月1日、8日、  
15日、22日（全て木曜日）

## 夏限定ボランティア募集！

毎日開催するミニワークショップをサポートしていただくボランティアを募集します。  
※詳しくは当館ホームページをご覧ください。

特別展示

# Monolog in the Doom 佃 弘樹

2019年7月13日[土] - 12月16日[月]

会場: 展示室5

休館日: 月曜日(祝日の場合はその翌日、8月13日、10月28日、11月25日、12月9日、12月16日は開館)、9月2日(月)~13日(金)、11月11日(月)~21日(木)、12月2日(月)~5日(木)、12月11日(水)

観覧料: 一般300(240)円、大高生150(120)円

\* ( ) 内は20名以上の団体割引料金

\* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、群馬県民の日(10/28)に観覧される方は無料

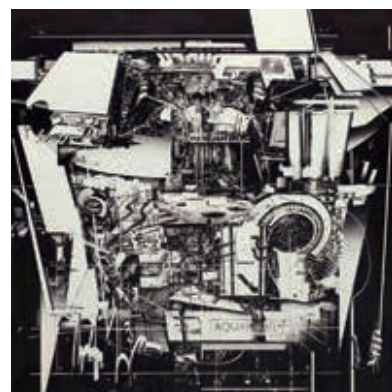
主催: 群馬県立近代美術館

協力: NANZUKA

私が青春期に多大なる影響を受けた映画や漫画、小説の中に度々出てくる世紀末思想が、近年の私の作品のテーマになっています。個展「199X」(NANZUKA、東京、2018)と「199X Storm garden」(Capitain Petzel、ベルリン、ドイツ、2019)では、90年代に文明が滅んだと仮定した新世界を表現し、その世界と現実の今の世界を対比してきましたが、この度の「Monolog in the Doom」ではそれらの集大成を発表したいと思っています。

私が頭の中に持つ「もうひとつの世界」には広大な風景が広がっていますが、そこには人物が存在しません(ポートレートシリーズは雑誌や広告をイメージして作っているので、存在する人物ではない)。故に私はその広大な世界である種、世紀末を夢見ながら、ひとり表現していくのです。

佃 弘樹



《The Needle and the Damage Done》2017年、紙、墨、インク、鉛筆、アクリルフレームにシルクスクリーン、220 x 220 cm

次回展覧会案内

## 没後70年 森村西三とその時代

2019年9月21日[土] - 11月10日[日]

会場: 展示室1

休館日: 月曜日(9月23日、10月14日、28日、11月4日は開館)、9月24日(火)、10月15日(火)、11月5日(火)

観覧料: 一般820(650)円、大高生410(320)円

\* ( ) 内は20名以上の団体割引料金

\* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、群馬県民の日(10/28)に観覧される方は無料

主催: 群馬県立近代美術館

協力: 千葉県立美術館

後援: 伊勢崎市、伊勢崎市教育委員会、高崎市(予定)

森村西三(1897-1949)は、群馬県伊勢崎市に生まれた鑄金工芸家です。東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学して鑄金を学び、在学中に花瓶や燭台を展覧会に発表して才能を開花させます。卒業後、結婚して池袋に住み、帝展や新文展に鳥や兎などの置物を数多く出品しました。故郷群馬のためにも名士の胸像や、戦争中には軍人像などを制作していますが、残念ながらそれらの多くは戦争中に金属供出されて残っていません。

森村西三は、戦後すぐに病に倒れ、亡くなりましたので、今では作者のことをよく知る人々が少なくなりました。しかし、高崎の白衣大観音の原型を制作した人と知れば、多くがその業績や生きた時代に興味を感じるのではないのでしょうか。しかも、調べてみると、森村西三の作品を大切に所蔵している方々が県内に複数いらっしゃる事がわかりました。本展は、それらの方々にご協力いただき、作品をご出品いただく予定です。皆様にも、作品に関する情報があればお寄せいただき、現在準備中のこの展覧会を盛り上げていただけたら嬉しいです。



森村西三《鑄銅鯰置物》1948年  
伊勢崎市教育委員会蔵

群馬の  
美術館ニュース



群馬県立近代美術館  
THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA

〒370-1293 群馬県高崎市綿貫町992-1 群馬の森公園内  
TEL 027-346-5560 FAX 027-346-4064  
<http://mmag.pref.gunma.jp/>

デザイン: 寺澤事務所・工房  
印刷: 上海印刷工業株式会社





